

# 国連NGO横浜国際人権センター・うずしおランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾ニュース

人間としての生き方を考える道徳教育と同和教育④ ～同和問題学習で培ってきた関係～

学年全体で同和問題について語り合ってきたからこそ

資料「ナイン」には取り上げられていない同和問題について語ったS・NとY・Iの発言に、背中を押されるようにクラスの関係とナインの関係についての語りが続いていきます。

**H・Iの語り「ナインの関係は、僕たちクラスにあてはまる」**

今、2人の発言を聞いて、このナインの関係は、僕たちのクラス3年B組にあてはまると思いました。これから徳島県も板野町も発展していくと思うし、やっぱり昔の板野町がよかったと思うことがあると思います。僕たちは中学生だけど、これから高校へ進学したり就職しても、こんなナインのような関係になっていきたいと思います。

**M・Mの語り「部落差別に負けそうになったとき、相談できるような関係をつくっていきたい」**

このナインの資料は、同和問題学習で学んできたことを土台として考えるとわかりやすいと思います。同和問題の学習では、自分の本当に感じたことや自分の中でこみ上げてきたものを意見として語り合うことによって、どれだけ周りが反応してくれるかということが大切だと思うんです。

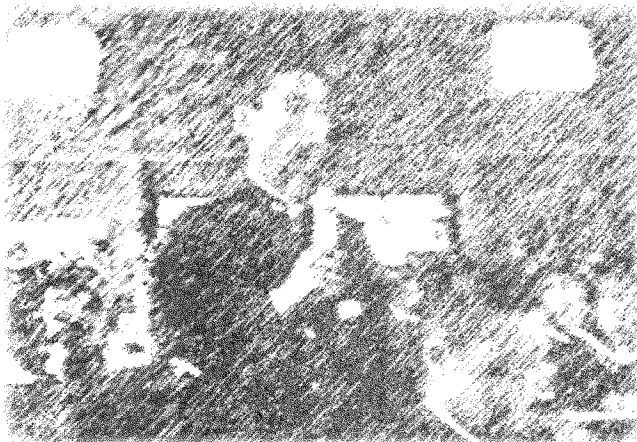
本当の思いと思いをぶつけ合うところに同和問題学習の本当の意味やよろこびや楽しさがあると思います。また、今まで積み上げてきた同和問題学習によって、このナインの関係は、僕たちのクラス3年B組の中でできてきたと思うんです。

支え合うということは本当に大切なことだと僕もしみじみ思っています。

僕は2年生のとき、自分の一番苦しい部分である部落出身ということをもみんなに訴えました。その時、みんながどんな反応をするかがとても不安だったけど、みんなが「そんなこと気にするな、いっしょに頑張ろう」という語ってくれて、ものすごくうれしかったんです。

このナインの団結を考えていくうちに、同和問題を語り合ったみんなのことが真っ先に出てきました。H・I君が言ったように、板野町とか徳島県とかもだんだんと変わっていくと思うんです。変わっていくことによって、昔の方がよかったという気持ちも残ると思うけど、大きくなってからも周りにこんな仲間がいて、互いに支え合って生きていくことができたらすばらしいと思います。

これから高校へ行ったり、就職したりして、周りに自分の心を開いて話のできる人がいなくなったら差別されるかもしれません。だけど、今はこの周りに仲間がいるからどんなことがあっても頑張っていくことができます。将来負けそうになったときも、今のこの仲間に相談できるような関係をつくっていきたいと思います。



この後も、資料に取り上げられていない同和問題に対する発言が続きます。そしてそれらを集約するように、資料「ナイン」で授業をするようになったこと、道徳教育と同和問題に対する生徒の思いが語られていきます。